



INGING MOTORSPORT



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [http://www.inging.co.jp]

# INGING NEWS PAPER 2009 VOL.04

Special Topics

## PLAY BACK to race

### Round.1 FIJI SPEEDWAY

前回の富士スピードウェイでの闘いを振り返って…

FREE  
無料

Race Report

The previous race : 2009 第3戦 ツインリンクもてぎ

## Round.3 TWIN RING MOTEGI

Round.4 FUJI SPEEDWAY 6/27 - 6/28

Support by cyber net

INGING NEWS PAPER VOL.4 [インギング ニュースペーパー]

発行：株式会社インギング 〒225-8501 東京都大田区 170-0013 東京都大田区 5-25-7 CIN/11

INGING NEWS PAPER

# Race Report

2009年、第3戦!!

第3戦 2009年5月30日-31日 ツインリングもてぎ

Round.3 TWIN RING MOTEGI 5/30 - 5/31

# 48



予選レース結果 <フリー走行> 天候:晴れ|コース状況:ドライ

朝陽、気温大台から昼から2段階のインターバルの後、フォーミュラ ニッポンは第3戦を迎えた。短い期間ではあったが、果たしベネチアからはチームがブリックリンを皮切りに参戦した。ドライの路面で午前9時40分からのフリーラップクイズは始まった。予選からホワイトラインの目印が入れられたコースドレーキを使い、各チームともマシンセットアップに余念がない。まずコースを1周した後、ピットでは最後の優勝チェックを行う。特に優勝を見ることなく、立川は7番手のタイムを記録しながらも、10分が経過した時点で予選スタート、スウェットはストップアンドゴーサーキットで懸念されていたブレーキ周りの問題を克服した。

セッション残り10分となった頃、フレッシュタイヤを装着したマシンが数台とコースイン。立川はフロントサスペンションに調整を加えるなど、午前からのノックアウト予選に向けてタイムを上げていく。直ぐピットを空にしながら次のラップはたった、1'38.315のタイムにて10番手予選でセッションを終了。ピットに戻った辺りからは素晴らしい表情が窺われた。

<ノックアウト公式予選> 天候:晴れ|コース状況:ドライ

予選予選を記録し、11番手のポジションに繋がる。いったんピットに戻った立川は、総勢が好転するセッション後半に進入して、この日のトップタイムもまた1分35秒であり、各チームともセッション終了直後のタイムアップを急いでいる。そして7分が経った頃から予選コースとなり、Q2に向けての戦いが始まった。立川は各セクターベストを保持していたが、タイムアップしてからのセッションもある。立川は遅くスタートアップに入ったもののタイムを縮めることができなかった。結果は13番手でアウットされてしまった。総勢ではQ3最終予選セッションに駒を進め、進化を見せたGERUMO/INGINGであったが、非常に残念な結果となってしまった。ポイントリーダーのB トルビエ (IMPUL) がQ2最終予選を記録し、ポイントリーダーとなった。決勝レースはベネチアを駆け回り予選と同等の強みがあった。立川はひとりでつり上げり、12番手グリッドからのスタートとなった。

決勝レース結果 <フリー走行> 天候:曇り|コース状況:セミウェット

30分間のセッション、気温は19度、全車がウェットタイヤでのスタートとなったが、開始直後チームは急速に乾かされたコースに変わっていきスリックタイヤに交換する。他チームもその後乾かすためのピットインとなる。残り5分、#31 L.デュバル (NAKAJIMA) が最終コーナーでスピニングアウトするなど、厳しいコース状況の中であるが、立川はことに実力タイムを上げていた。1'39.592。順位は13番手であるものの差は離れぬ。セツにチームは立川をセツに呼び戻すと、できるセッション作業に入った。今後のもてぎ大会ではフット、ファンサービスの一環として15分間のサーキットサーフィが企画されており、ファンがコースを確認する中、レースマシンも共に走行する。フルアタックは当然できないものの、許された走行時間を有効に使い、チームは決勝レースに向けて最大限の努力を盡した。

<決勝レース/52周> 天候:曇り-小雨|コース状況:ウェットドライ

両車は完全にウェット状態の中、スリックタイヤでの決勝レースがスタートした。立川は旗竿のスタートを決めて3コーナーで6番手スタートの#37大橋 (TOM'S) をアウトからパス。その直前には#31 L.デュバル (NAKAJIMA) がハーフシブ、各車が入り乱れる波乱のオープニングラップとなった。立川はその機会を突き、なんと5番手までポジションを上げる。そして滑る路面の中、4番手争いを繰り広げていた立川だが、雨を想定した戦略通りに、チームは得意よりも先にレイトタイヤを履き、10周目に立川をピットインさせた。同時に給油も済ませた立川は、直ぐにピットを立ち上がり、タイムを上げる。14周目、3コーナーからオーバーテイクシステムを作動させ、5コーナーでB トルビエ (IMPUL) をかわす。その直後、順位を落としてしまう。ピット前には直ぐさまレギュレーターのピットインに乗りかえり、立川はピットに戻らずその後も決勝ペースで走り続けた。レース中盤、順位は完全に上がり、レコードタイム上りとなる。26周目に立川は再度ピットインすると、タイヤをスリックと交換。さらにベネチアは、タイムは1分40秒台に突入する。そして7周目走行中の30周目、なんと2コーナー立ち上がりで立川は大きなスピニングアウト、マシンはウォールに激突、素晴らしい悪戦を見た。決勝レースはここで終了となった。

順位は不安定な状況の中順位を上げられたものの、ポイントリーダースタートの#32小宮 (NAKAJIMA) が決めた。

[46] 立川 祐哉 リタイア

Lap	29	Delay	23Lap
Time	54'43.050	Best	1'38.300

## Round.3 Race Comment

### 48 立川 祐哉 CERUMO/INGING

「予選は遅くスタートしたが、セッション後半にはタイムを上げていき、予選コースに入り、Q2に向けての戦いが始まった。予選コースに入り、Q2に向けての戦いが始まった。予選コースに入り、Q2に向けての戦いが始まった。予選コースに入り、Q2に向けての戦いが始まった。」

初戦の富士スピードウェイを振り返って  
今年のフォーミュラ ニッポンは新しい試みとしてオーバートイックシステムが導入された。これは決勝レース中に気温、20分間メーターのブリックリンタイムを記録し、タイムアップが可能となる。

決勝レースでは立川は最終予選13番手グリッドからのスタート。レッドグランドホテルで一時にスタートするが、直ぐにピットインしてピットストップ。その後、5コーナーでオーバーテイクを成功させている。立川は最終予選13番手グリッドからのスタート。レッドグランドホテルで一時にスタートするが、直ぐにピットインしてピットストップ。その後、5コーナーでオーバーテイクを成功させている。

順位が上がった。三ツ巴の争いが続いた。立川は予選で順位を上げた立川だったが、オーバートイックシステムを5分に使う小宮に1コーナーでパスされ、8番手に回復する。

レース中盤22周目を終えたら各チームのルーティンのピットインが始まった。立川は予選通り27周目にピットイン。メカニックはタイヤ交換、ガソリン補給、そしてランニングタイムを記録する。チームはセツのタイムアップもあがり、立川は36周目にピットインして、ピットストップ。その後、5コーナーでオーバーテイクを成功させている。立川は最終予選13番手グリッドからのスタート。レッドグランドホテルで一時にスタートするが、直ぐにピットインしてピットストップ。その後、5コーナーでオーバーテイクを成功させている。

順位が上がった。三ツ巴の争いが続いた。立川は予選で順位を上げた立川だったが、オーバートイックシステムを5分に使う小宮に1コーナーでパスされ、8番手に回復する。

